

1 教科について

国語

※ 全国学力・学習状況調査については、調査を実施した場合、調査実施後、改善計画に付け加える。

昨年度の課題

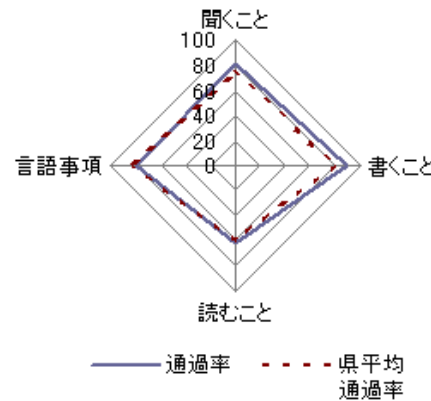
- ①読む力の「段落相互の関係を正しく捉える」問題において、設問の趣旨を正しく理解できない。(通過率 45.6%)
- ②楷書の部首が行書体になったときにどのように変化するかを正しく捉えておらず、また日常でも部首を正しく書くことができないので、正誤が認識できない。(通過率 49.0%)
- ③設問の指示を正しく理解し、指示に対応した書き方で文を書くことができない。

昨年度の課題を受けて  
具体的に取組んだ事項

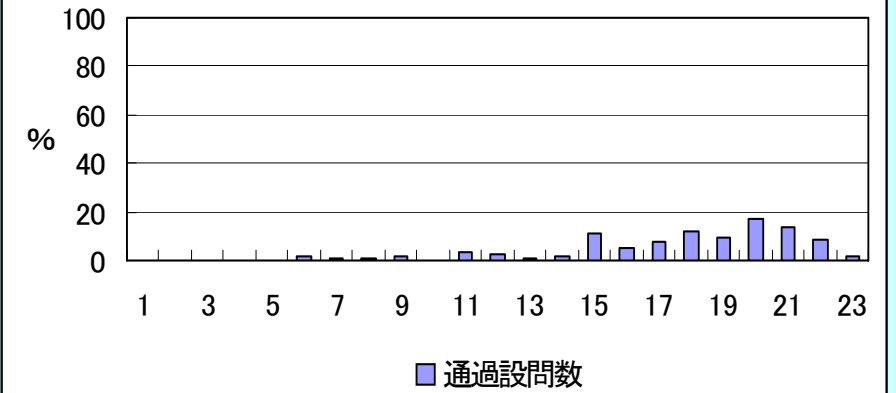
- ①文章(問題文・設問文)を、正しく分析し求めに応じた答えを導くための、文章解析力をつけるワークシートの工夫や授業での出題と解答の練習確認を行い、テストで定着度を確認した。段落の関係を、図式化するなどして、わかりやすくまとめる学習を行い、グループでの交流学习によって、個々の捉えを確認させたり、より良いものにさせたりした。
- ②漢字の部首に関わる学習を、新出漢字以外にも行い、書写(硬筆毛筆)の行書学習において、楷書との比較をさせ、違いを確認させた。また、ワークシートを活用して、部首及び行書体の練習を実施し、定期テストで確認した。
- ③指示をスモールステップで増やしなが、短文でまとめる学習を、年間において定期的に行い、定期テストにおいて定着度を確認し、必要に応じて追指導を行なった。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 76.0% 県平均 73.2%

領域別平均通過率(国語)



通過設問数ごとの生徒割合(国語)



重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査  
◇:全国学力・学習状況調査

- ◎文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てることができることに課題がある。(通過率 46.2)
- ◎文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解することができることに課題がある。(通過率 46.2)

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①段落が文章全体で果たす役割を考えるために、その段落およびその段落の前後や全体の中心部分を見つけ出したり、事実と意見を区別したり、構成や展開を図式化してまとめるなど、個人思考の後でペアやグループでの討議で、個人の理解を確かなものにする授業を行なう。
- ②文学的文章の指導において、キーワードの前後や段落中のポイントを読み取る視点を明確にさせ、その表現に即して、筆者の心情や状況をとらえる指導を行なう。その際、根拠を本文に求めることを徹底して指導する。

来年度の目標値

- 文章の中心と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てることができることの通過率55以上
- 文脈の中における語彙の意味を正しくとらえ、理解することができることの通過率55以上

# 指導方法等の改善計画について

## 数 学

※ 全国学力・学習状況調査については、調査を実施した場合、調査実施後、改善計画に付け加える。

### 昨年度の課題

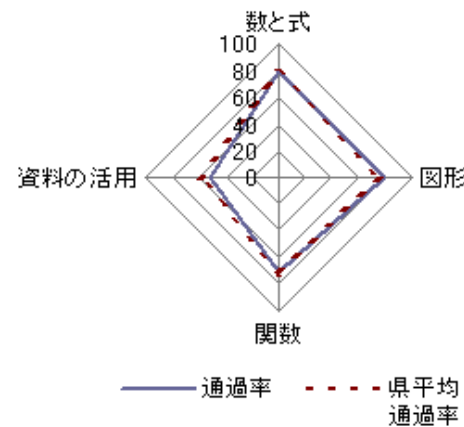
- ①領域別に見ると、資料の活用の領域の通過率が他の領域と比べてかなり低い。基本的用語の理解と割合の計算ができていない。
- ②どの領域も用語を十分理解できていないため、図形領域においては「垂直な面」を「平行な面」や「辺」などと解答している。
- ③数量関係を具体的数値で計算できても文字式で表すことができない。また、文字式で表された式の意味が理解できていないため説明ができない。

### 昨年度の課題を受けて 具体的に取り組んだ事項

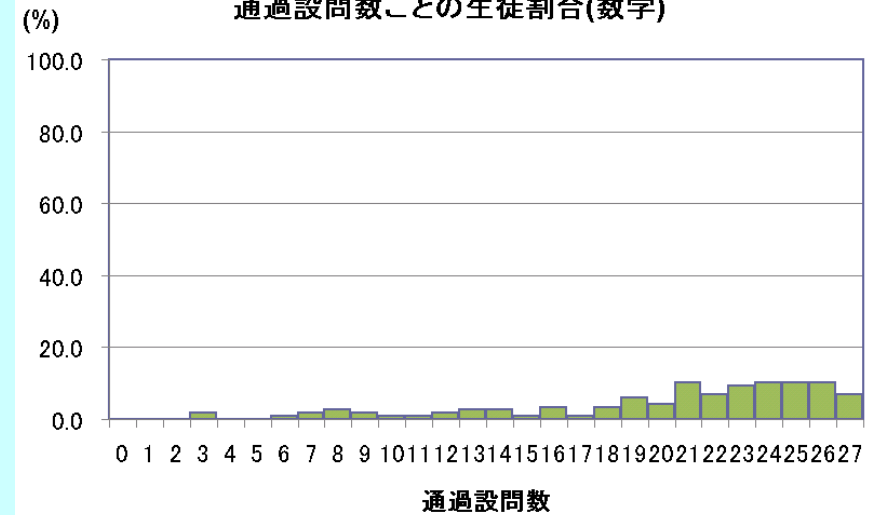
- ①資料の領域は、一学年以外の学習内容にないため、以上・未満の意味や割合の計算は方程式で復習していく。関連のない内容については、「3年生の総復習」でしっかり復習していく。
- ②用語については、その単元で小テストを繰り返し、定着させていく。また、単元の導入や休み明けテスト等で前年度の用語の復習を行っていく。
- ③数量関係を文字式で表す学習は、具体的数値から式を考えさせ文字式を作らせる。「なぜ?」「どうして?」と問いかけ、考えさせ説明できる力をつけていく。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **75.7%** 県平均 **74.7%**

領域別平均通過率(数学)



通過設問数ごとの生徒割合(数学)



**重点課題** ◎ : 「基礎・基本」定着状況調査  
◇ : 全国学力・学習状況調査

◎・・・説明問題に対する通過率は71.8%と低くは無いが、無回答率が16.2%と高い。

### 重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①昨年度も課題であった資料の活用については、意味のある実際の資料を用いて、データ解析的な活動を行なうことを通していねいに指導していく必要がある。2学年の確率において多数回の試行により資料を作成する際に相対度数の復習を行い、3学年の標本調査を取扱う中でもいねいに復習していく。
- ②単なる面積を求める公式の教授や、手法の伝達に止まることがないように、生徒側からの「なぜ?」や教師側からの「なぜ?」を大切にして、自分の考えを自分の言葉ではっきりと表現させるように指導する。
- ③説明の苦手な生徒には雛形を活用する等のサポートを行い、ペアトークやグループトークを通して成功経験を積み重ねていく。2学年や3学年の図形領域において、検証の復習を行っていく。

### 来年度の目標値

- 「資料の活用」における平均通過率を60%以上にする。
- 説明をする問題の無回答率を10%未満にする。

# 指導方法等の改善計画について

## 英語

※ 全国学力・学習状況調査については、調査を実施した場合、調査実施後、改善計画に付け加える。

### 昨年度の課題

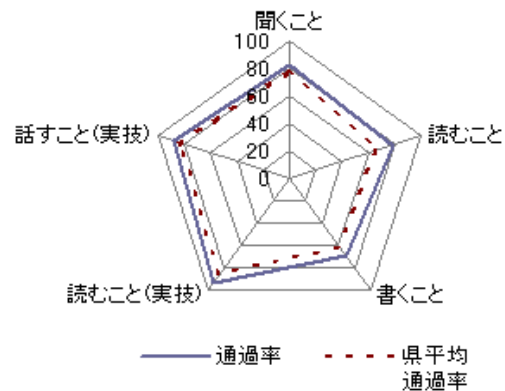
- ①聞くことにおいて、話の概要や要点を把握する問題に課題がある。
- ②読むことにおいて、会話や物語の流れの理解、中心となる事柄の把握ができていない。
- ③書くことにおいて、接続詞などを用いてつながりのある英文を書くことができない。

### 昨年度の課題を受けて 具体的に取り組んだ事項

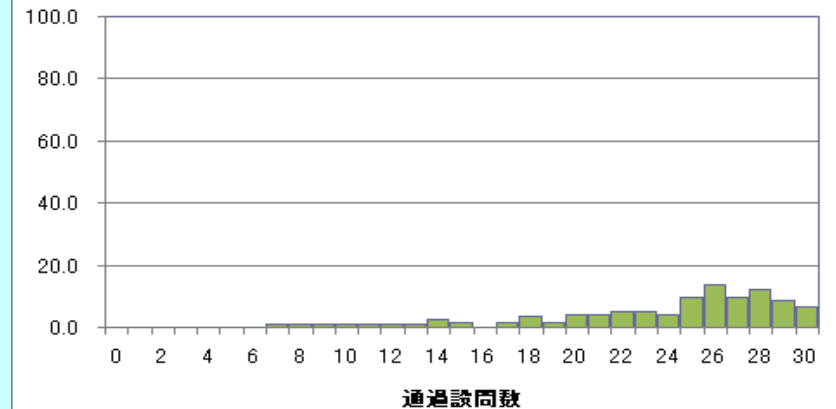
- ①リスニングプラスや ALT とのやりとりを聞き取り、話の要点や概要を捉える練習をする。その際、キーワードをメモするように指導する。
- ②リーディングの活動の際、代名詞、接続詞 but, 5W1Hなどを文脈の把握において意識するように指導する。読み物を扱う際に、英語で質問をして英語で答えさせたり、また深い内容については、日本語で答えさせるなどして物語の内容をつかませる。
- ③ライティングの活動では、接続詞や代名詞を使い、つながりのある文を書く練習をする。自分のことや身近なことがらについて、意味が途切れないで説明できるように指導する。自己紹介文や夏休みのできごとを書かせるなどして、練習をする。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **79.5%** 県平均 **71.9%**

領域別平均通過率(英語)



通過設問数ごとの生徒割合(英語)



### 重点課題

◎ : 「基礎・基本」定着状況調査  
◇ : 全国学力・学習状況調査

- ◎・・・聞くことにおいて、話の概要や要点を把握する問題に課題がある。(通過率 63.2%)
- ◎・・・読むことにおいて、適切な語を用いた会話文の組み立てをすることができていない。(通過率 65.0%)
- ◎・・・書くことにおいて、つながりのある英文を書くことができていない。(通過率 53.8%)

### 重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

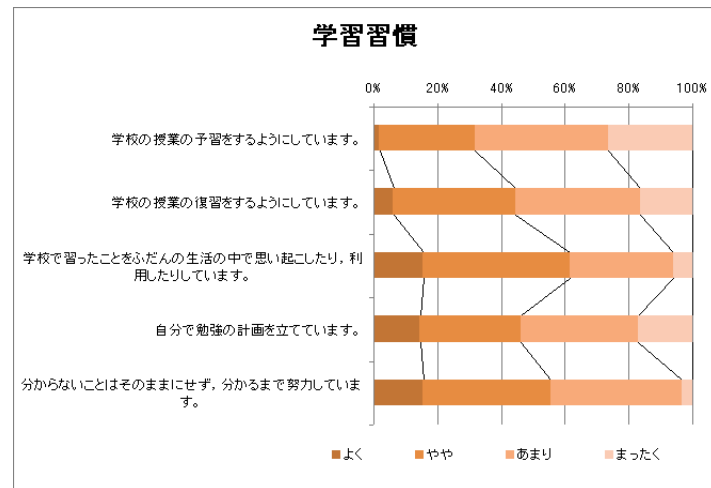
- ①ユニットの始めにストーリー全体のリスニングをして、大まかな内容について英問に答えることによって、話の要点や概要を捉える練習をする。その際、キーワードや重要な情報についてはメモをとるように指導する。
- ②並び替えの問題の際に、主語と動詞の語順を意識して解答していくことを指導する。主語のかたまりの語句を結びつけて、捉えられるように練習をする。
- ③接続詞や代名詞を用いて、自然な流れのある英文を書く練習をする。自分のことや身近なことがらについて、つながりをもった文で説明できるように指導する。

### 来年度の目標値

- 英文を聞いて概要や要点を理解する問題において、平均通過率を65%にする。
- 適切な語を用いた会話文の組み立てをする問題において、平均通過率を68%にする。
- つながりのある英文を書くことにおいて、平均通過率を60%にする。

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，生徒質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，生徒質問紙）

(1) 生活・学習

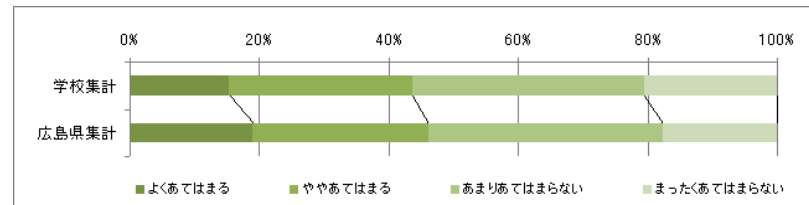


改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組の内容
◎学習習慣の項目は、「学校の授業の予習をする」は昨年度の30%が31%とほぼ変化がなく、県平均の36%よりも依然として低い。 ◎1日の家庭学習時間が2時間未満と答えた生徒が、昨年よりもさらに増加し95%おり、大きな課題である。	・現在の宿題・課題の量・内容や頻度を把握し、不足している内容を上積みしていく取組を行う。家庭学習の充実につながる授業改善を行う。 ・宿題の提出率が低い生徒に対して、保護者と連携しながら、継続的に指導し。宿題をやりきらせることを通して学習習慣を身につけさせる。また、生活記録や自主学习ノート等を活用し、持続的に学習や生活の状況を把握し、学習意欲の向上に向けた取組を進める。

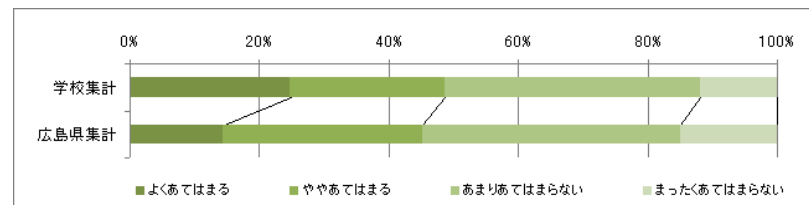
来年度の目標値	目標内容
	・学校の授業の予習をする生徒を70%以上にする。 ・1日の家庭学習時間が2時間を超える生徒を70%以上にする。

(2) 教科

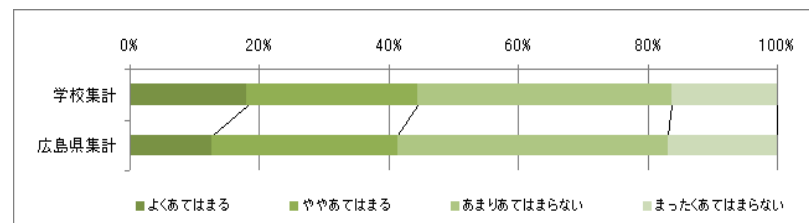
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



数学の授業では、理由をあげて自分の考え方や解き方を説明しています。



英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で話しています。



	生徒の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	◎・・・読む文章に疑問を感じたときに、辞書を引いたり自分で答を求めようさせる指導が不十分である。	・授業の中で、予習を必要とする学習展開を工夫し、家庭での学習を定着させる。また、家庭での学習の手立てや方法を事前に指導し、学習意欲を高める。
数学	◎・・・昨年度に比べると理由をあげて自分の考え方や解き方を説明している生徒の割合が高まってきたが、まだまだ十分ではない。	・雛形を準備し、簡単な問題から自分の考えを自分の言葉で説明できるようにしていく。 ・ペアトークやグループトークを取り入れ、お互いに説明しあうことで理解したり説明できるようにしていく。
英語	◎・・・自分の考えや気持ちなどを英語で話す問題に課題がある。	英語の基礎的な知識・表現を練習したあと、それらを使って自分の身近なことを英語で表現する活動を重点的に取り入れていく。表現の能力を問う問題を多く提示する。

来年度の目標値	目標内容
	・「分からないことばや漢字は辞書を使って調べています」を50%以上にする（国語） ・「理由をあげて自分の考え方や解き方を説明しています」を60%以上にする（数学） ・「自分の考えや気持ちなどを英語で話しています」を80%以上にする（英語）

指導改善のための実施スケジュール

